

## 研究についての説明

### はじめに

この文書は、研究課題名「女子7人制ラグビーにおける外傷・障害に関する疫学調査」の研究において、既存情報を利用することをお知らせするための説明文書です。わからないことや、心配なこと、疑問に思ったことなどがありましたら、どんなことでも遠慮なく説明者または研究責任者にお尋ねください。

説明者 所属 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 体育学専攻  
氏名 平井 晴子  
連絡先 s1821485@s.tsukuba.ac.jp

研究責任者 所属 筑波大学 体育系 准教授  
氏名 竹村 雅裕  
連絡先 takemura.masahiro.gw@u.tsukuba.ac.jp

### 記

#### 1 研究課題名

この研究の研究課題名は、「女子7人制ラグビーにおける外傷・障害に関する疫学調査」です。この研究は、筑波大学体育系研究倫理委員会の審査を経て、筑波大学体育系長の許可を受けて実施しています。

#### 2 研究の背景

リオデジャネイロ五輪で正式採用となった7人制ラグビー（以下セブンズ）への注目が高まっています。セブンズは15人制ラグビーと同じ大きさのフィールドを用いて7人でプレーするため、ボールが大きく動き、スピードやアジリティ能力が求められる上、15人制ラグビーと同様にタックルやスクラムなどの衝突が多く見受けられるスポーツです。先行研究では、セブンズは15人制ラグビーと比較し、より高い頻度での外傷が発生し、一般的に重症度がより高いと報告されています。セブンズにおける外傷・障害の疫学調査は近年増加傾向にあります。女子セブンズにおける報告はまだ少なく、かつ試合時を対象としたものに限定されています。試合は2日間で5～6回、7分ハーフと短い形式で行われるため、このような局面のみの調査では、外傷・障害の疫学的特性を把握するのは困難なため、長期に渡る調査が必要です。女子セブンズ日本代表チームにおいてはリオデジャネイロ五輪で10位、東京五輪では12位であり、2024年パリ五輪でより良い競技成績を収めるためには、競技力向上はもちろんのこと外傷・傷害の発生を予防することが重要な課題です。

#### 3 研究の目的及び意義

本研究の目的は、女子セブンズ日本代表チームの活動中に発生した外傷・障害について過去の情報を用いた後ろ向き研究を行い、疫学的特性を明らかにすることを目的としました。

外傷・障害予防のためにSequence of preventionという4段階の予防モデルが提示されていますが、本モデルのステップ1にあたる疫学的調査を行うことは、女子セブンズにおける外傷・障害の予防策を講じるための一助となると考えられます。

#### 4 予想される研究上の貢献・期待される利益

リオデジャネイロ五輪、東京五輪までの活動で生じた外傷・傷害のデータをベースに、2024年に開催されるパリ五輪に向けたトレーニング計画や運動負荷の調整のための情報提供となります。また、本研究は女子セブンズにおける外傷・障害を長期間追跡する初めての調査であり、ラグビーユニオンの国際競技連盟であるワールドラグビーで最も議論されているテーマの一つである「Player welfare (安全なプレー)」を講じる一助となります。

#### 5 研究実施期間及び試料・情報等の保存期間

この研究は、2026年3月31日まで実施する予定です。

研究期間終了後、2036年3月31日まで、取得した情報を保存します。

#### 6 研究実施場所及び研究実施体制

##### (1) 共同研究の有無

この研究は、筑波大学体育系において単独で実施する研究です。

##### (2) 研究実施場所

この研究は、筑波大学体育系において単独で実施する研究です。

5C棟316(院生控室)にてデータ解析および論文執筆、総合研究棟D622(教員研究室)にて論文執筆を行います。

##### (3) 組織

研究組織は、以下の通りです。

	所属	職名または 課程・学年	氏名	研究倫理研修 会受講番号	研究における 役割
研究責任者	体育系	准教授	竹村 雅裕	191120015	論文執筆、総括
連携研究者 (学内)	人間総合科学 研究科体育学 専攻	博士前期課程 2年	平井 晴子	191120021	データ解析、 論文執筆
研究協力者	公益財団法人 日本ラグビー フットボール 協会	代表事業部部 長	山縣 真平		データ収集

#### 7 研究対象者

研究対象者は、健常若年女性91名とします。選定方法は、女子セブンズ日本代表選手もしくは日本代表候補選手であることを条件とします。本研究では、過去に女子セブンズ日本代表チームが記録した情報を、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会より取得します。

#### 8 実施内容

##### (1) 実施方法の説明

###### ①調査期間

2013年4月から2021年7月までの8年間に記録されたすべての外傷および障害について調査、解析します。

## ②対象者

女子セブンズ日本代表もしくは日本代表候補選手としてチームの活動に参加した91人とし  
ます。

## ③調査項目

調査方法、受傷部位や外傷・障害の種類分類には、2007年に国際ラグビーフットボール評議  
会（International Rugby Board）が発表した「傷害の定義およびデータ収集に関するコンセンサ  
スステイトメント」に記載された定義を用いています。本研究における傷害発生の定義は、「女子  
セブンズ日本代表チームでの活動中に発生した外傷・障害が原因で、受傷後に予定されていた試  
合および練習の全てに24時間を超えて参加できない状態」です。外傷・障害に関する項目は、受  
傷したシーズン、受傷時のポジション、受傷のタイミング、受傷部位、外傷・障害の種類、診断  
名、すべての練習に復帰するまでにかかった日数、再受傷の有無、接触の有無、受傷の原因とな  
ったプレー、外傷・障害の発生要因です。

## ④調査方法

全ての情報は、外傷・障害が発生あるいは認識された時に、女子セブンズ日本代表チームのア  
スレティックトレーナーが外傷・障害レポートシートに入力し、必要に応じて選手本人に聞き取  
りをしました。また、発生率を算出するために、それぞれの活動日における活動時間と参加人数  
を記録し、時間と人数を掛け合わせた Exposure time（暴露時間）を算出しました。

## ⑤評価項目

全ての外傷・障害の、発生率、重症度、injury burden とします。発生率は、発生件数を  
Exposure time で除した値を1000倍し、1000 player hours あたりの発生率として算出します。  
重症度は、外傷・障害が発生した時点あるいは認識された時点から、練習に完全に参加した時点  
までの日数とします。外傷負担は、1000 player hours あたりの発生率と平均重症度を掛けて算出  
するもので、外傷・障害の発生によるプレー損失時間への影響度を評価します。さらに、これら  
の項目をリオデジャネイロ五輪までの期間（2013年4月～2016年7月）と東京五輪までの期間  
（2016年8月～2021年7月）で比較検討します。

## （2）情報の提供を受けるための手続

### ① どこから提供を受けるか

公益財団法人日本ラグビーフットボール協会（以下 JRFU）

### ② どのような目的で既存試料・情報とされたものか

女子セブンズ日本代表チームの活動中に生じた外傷・障害の疫学的特性の把握、外傷・障害予  
防を目的としています。

### ③ 提供を受ける試料・情報は何か（個人が識別される情報を含むか否か）

年齢、身長、体重、受傷したシーズン、受傷時のポジション、受傷のタイミング、受傷部位、  
外傷・障害の種類、診断名、すべての練習に復帰するまでにかかった日数、再受傷の有無、接触  
の有無、受傷の原因となったプレー、外傷・障害の発生要因です。対応表を提供元で作成・管理  
し、個人を特定できる情報を取得しません。氏名、受傷日、全ての練習に復帰した日など、情報

同士をリンクさせると個人が特定できるものは含みません。また、年齢、身長、体重は基本情報としてのみ使用し、外傷・障害データとのリンクはありません。

#### ④ 提供を受けるためにどのような手続をとるか

##### ア 提供を受けるための自機関での手続の内容

筑波大学における研究倫理審査承認後に、JRFUのコンプライアンス委員会よりデータ使用の稟議を受けます。承認されたのちに発行される遵守確認書にサインをします。対応表を作成していただき、個人が特定される情報は提供されません。スポーツ医学専攻学位プログラムホームページ (URL; <https://sportsmed.taiiku.tsukuba.ac.jp/takemura-masahiro/>) > 教員紹介 > 竹村雅裕 > 研究室ページにて公開します。

##### イ 提供を受けるための提供元機関での手続の内容

JRFUで稟議書を作成し、JRFU内の関係部署にて稟議を行います。稟議手続きを得て承認が得られた場合、遵守確認書を作成し、筑波大学の承諾を得ます。日本代表チーム活動拠点のメディカルルームに研究計画書を掲示し、オプトアウトを行います。データはCD-Rにて授受されません。

### 9 研究における倫理的配慮

#### (1) 研究の対象となる個人の人権擁護 (①個人情報の管理、②個人情報の保管、③個人情報の破棄、④個人情報の開示等、⑤プライバシーの保護)

##### ①個人情報の管理

- ・ 解析するデータには、個人の名前・住所等の個人情報は含みません。
- ・ 分析に際しては、データをコード化し、個人が特定されないようにします。

##### ②個人情報の保管

- ・ 収集したデータは匿名化して侵入対策及びウイルス防御対策を施したUSBメモリーに保存し、パスワードを設定して研究責任者および連携研究者以外はアクセスできないようにします。
- ・ 収集したデータは、総合研究棟D622室(教員研究室)に設置した鍵のかかるロッカーに施錠して保管します。

##### ③個人情報の破棄

- ・ 電子データは、保存期間満了時に完全に消去します。

##### ④個人情報の開示等

- ・ 研究結果を論文発表および学会発表で公開します。
- ・ 研究結果を公開する際には、研究対象者個人を特定できる個人情報等を開示しません。
- ・ 研究対象者等及びその関係者からの相談に対して問い合わせ先を通知して対応します。

##### ⑤プライバシーの保護

情報の提供を受ける際に個人の映像・肖像を含まないため該当しません。

#### (2) 研究の対象となる個人に理解を求め同意を得る方法 (インフォームド・コンセント等)

- ・ 研究への参加は研究対象者自身の自由意思によって決定され、研究への参加に同意した後であっても、研究発表までの間、撤回できます。また、そのことによって研究対象者が不利益

